



株式会社ユニテッドアローズ 2022年3月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答集

この質疑応答集は報道機関向け、アナリスト・機関投資家向け決算説明会にて、ご出席の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

●業績について

Q. 上半期の売上、利益の対計画進捗について知りたい。

A. 売上高、売上総利益率が当初計画を若干割り込んだものの、販管費の抑制が効いており、営業損失以下の各損失幅は当初計画よりも低く収まりました。

Q. 1Q 説明会で触れていた10億円の在庫評価損の戻りはどうなったのか？

A. 1Qの段階では10億円の戻りを想定していましたが、その後の売上が弱含んだため、2Qでは6億円程度となっています。来年春シーズンで消化が進めば、4Qに残りの4億円分が発生する見通しです。在庫評価損の戻りについては、当初計画には織り込まれておりません。

Q. 上期末時点の在庫の中身は？

A. 2020年春夏在庫はやや重たいが、絶対額はそこまで多くはありません。2020年の秋冬商品、2021年の春夏商品の在庫は少なく、2021年秋冬商品は在庫の積み増しを行ったものの、絶対額は大きくなく、在庫の懸念は少ないです。

Q. 売上総利益率の回復が2Qでも遅れている要因は？

A. レギュラー事業では、緊急事態宣言の影響などで7月、8月の動向が鈍く、セールの値引き率を踏みこんだことが影響しており、アウトレットでは過年度在庫の消化促進を行ったことが影響しています。

●その他

Q. 中国の電力問題、ベトナムの新型コロナウイルス感染拡大で商品調達の遅れが出ていると思うが、どの程度の影響があるのか？

A. 2021年秋冬商品で、約17%程度の商品に納期遅延が出る可能性があります。中国生産で1~2週間程度、ベトナム生産で数週間とみられるため、現在対応を検討しています。2022年春夏も多少影響が出る可能性はありますが、それほど大きくはならない見通しです。

Q. サプライチェーンのデジタル化による売上総利益率の改善幅をどの程度想定しているのか？

A. サプライチェーンのデジタル化により、商品の的中率が上がり、売上総利益率の改善につながります。サステナビリティの視点でも、残在庫の縮小につながっていきます。売上総利益率はサ



サプライチェーンデジタル化の効果以外にも寄与する部分が大きく、具体的に目指す水準は討議中のため、現段階ではお答えできません。

Q. サステナビリティの取り組みに対して、お客様からの反応はあるのか？

A. 一部でオーガニック素材、リユース素材など環境配慮素材を使用した商品を展開していますが、現段階では環境配慮素材の使用が直接購買動機につながっているケースは多くありません。商品面の取り組みではありませんが、「リデュースショッピングバッグアクション」と題した、ショッピングバッグの使用量を削減し、森林保全につなげていく施策を行っています。今夏に一部プログラムを改定し、社外告知や社内啓蒙を行ったところお客様の参加率も上がり、お買い上げになったお客様のうち 20～30%の方々にご参加いただいている店舗も出ています。

Reduce Shopping Bag Action: <https://taisetsu.united-arrows.co.jp/action/>

以 上